

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第2部門第4区分

【発行日】平成27年12月24日(2015.12.24)

【公開番号】特開2015-199302(P2015-199302A)

【公開日】平成27年11月12日(2015.11.12)

【年通号数】公開・登録公報2015-070

【出願番号】特願2014-80725(P2014-80725)

【国際特許分類】

B 4 3 K 1/08 (2006.01)

B 4 3 K 7/00 (2006.01)

B 4 3 K 8/00 (2006.01)

【F I】

B 4 3 K 1/08 Z

B 4 3 K 7/00

B 4 3 K 8/00

【手続補正書】

【提出日】平成27年10月6日(2015.10.6)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項4】

前記継手の中心部材は略筒状に形成され、前記継手の周辺部材は前記中心部材の外周に形成されるときとも略筒状に形成され、前記中心部材と前記周辺部材との間に形成された環状の空間には前記インク供給部の先端が挿入されることを特徴とする請求項1、請求項2又は請求項3に記載の筆記具。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0005

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0005】

(第1の発明)

上記の課題を解決するために、本願における第1の発明は、
筆記先端40と、
前記筆記先端40にインクを供給するインク供給部30と、
前記筆記先端40及び前記インク供給部30を連結させる継手60と、
前記筆記先端40、前記インク供給部30及び前記継手60を内部に収納する軸筒10とを有する筆記具1において、
前記継手60は、
少なくとも筆記先端40を接続する中心部材61と、
前記中心部材61から離間した周辺部材62と、
前記中心部材61と前記周辺部材62とを接続して成形された介在部材63とからなり、
前記介在部材63は前記中心部材61と前記周辺部材62とは異なる材質からなることを特徴とする。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】 0 0 0 9

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 0 9 】

ここで、軟質な物質とは、前記中心部材61と前記周辺部材62よりも軟質であれば、制限はないが、成型工程において、金型を用いて高温下で行うため熱可塑性のエラストマーが望ましい。

本発明によれば、第1の発明と同様に、筆記の際の力の入れ具合によって、継手60が撓むが、介在部材63に軟質な物質を使用しているため、より撓むことで、よりやわらかな筆記感となる。

（第4の発明）

本願のうち第4の発明は、第1、第2又は第3の発明に加え、前記継手60の中心部材61は略筒状に形成され、前記継手60の周辺部材62は前記中心部材61の外周に形成されるときにも略筒状に形成され、前記中心部材61と前記周辺部材62との間に形成された環状の空間に前記インク供給部30の先端が挿入されることを特徴とする。